



発行所
 社団法人 国民文化研究会
 (九州←→東京←→全国)
 東京都渋谷区東1-13-1-402
 振替 00170-1-60507
 電話 03-5468-6230
 F A X 03-5468-1470

月刊「国民同胞」編集部
 毎月一回10日発行
 購読料 年間2000円

「としを」「日本覚醒」の一年に

——対露勝利百年、明治人の気概に学べ！——

本会理事長 上村和男

昨年は度重なる天変地異に見舞はれた一年ではあったが、十一月中旬には、紀宮清子内親王殿下の御婚約内定のお目出度い報道が温き風のやうに国中を駆けめぐった。紀宮様には、「新潟県中越地震」の罹災者を慮り正式発表を控へられたとのことであつたが、その公的発表が予定されてゐた十二月十八日、高松宮妃喜久子殿下薨去の悲報がもたらされた。殊のほか癉撲滅にお心を寄せられた妃殿下は徳川十五代將軍慶喜公のお孫様であられる。かうした皇室に関する報道に接するにつけても、君民一和の国柄が想起されてならない。新しい年を「日本覚醒」に向けた「真とした一年」にしたいものと改めて決意する次第である。

西陛下の御慰問を忝つした「新潟

県中越地震」は、人智の及びがたき自然の威力の大きさを、改めて教へてくれた。山崩れによって堰き止められた川がダム化して住居が水没してゐる様子は実に痛々しい限りであつた。十年前の兵庫県南部地震の時のやうに人口密集地が含まれてゐなかつたことや火災による二次災害が発生しなかつたことが、不幸中の幸ひであつた。余震に加へて降雪期を迎へた罹災民の胸中はいかばかりか。一日も早い復旧と平安なる生活の回復を願はずにはゐられない。

さて、今年は「対露勝利百周年」に当る。日露戦争は、わが日本が西欧列強に抗して独立を維持せむと西洋の文物を取り入れ近代国家への道を歩み始めた過程での戦ひであつた。ロシアはその十年前、三国干渉で日本に放棄させた遼東半島を手に入れ

その租借権を盾に満州を支配し、朝鮮半島に勢力を及ぼしつつあつた。その勢ひはわが国の独立に大きな脅威となつてゐた。国の存亡を賭け明治の先人達は敢然と立ち上がった。その姿は司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』にも詳しい。日露戦争を戦ひ抜いた明治人の労苦と気概を今こそ憶念しなければならない。

翻つて一九四一年十二月、数次に及び日米交渉の経緯の一切を台無しにするハル・ノートを突きつけられた日本は開戦に追ひ込まれた。今回のイラク戦争にも似た一面がなくもなく、当初から米国には相手を完膚なきまでに叩き潰さうとする意思が確立してゐた。だから、敗戦後の被占領期の東京裁判で、インドのバル判事が「米国が日本に手交したやうな覚書を受け取れば、モナコやルクセンブルグやうな小国でも武器を取つて立上がったであらう」と日本の追ひ込まれた戦争であつた旨の意見を開陳してゐるのである。

ところが、平成七年八月十五日、時の村山富市首相は「わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を行んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によつて、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛

を与えました」と、疑いようもないこの歴史事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持を表明いたします」との談話を発表した。

そこには一國のリーダーとしての熟慮も誇りもなく、日本を一方的に断罪したリンチもどき戦勝国史観（東京裁判史観）への全面屈服があるのみであつた。その後の橋本・小淵・森の各内閣、そして小泉現内閣もこの「村山談話」の線上から一歩も出ようとはしない。これでは子供達に「矜持」や「愛国心」、「正しい国家意識」が育つ筈もない。しかも、悲しいかな、依然として一時鎬ぎをこつとする多くの政治家や官僚が国政を動かしてゐる。村山談話を先導したと言つてもいい朝日新聞を初めとする偏向メディアは、昨今は靖国神社に対する内政干渉の呼び込み役を務めてゐる。腹立たしい限りだ。

かうした正視に耐へない現状を思ふと、「日本覚醒」の道のりは確かに多難である。だが、この本質は簡明だ。独立を守護した明治の人々の気概に学んで「自主憲法」を制定し、国籍不明の「教育基本法」を改めることである。今年をその動きをさらに進める雄々しい一年にしたいものである。